

## 2023年度

科目名称	産業動物汎論
授業コード	BC356
英語名称	Farm animal general theory
学期	2023年度後期
単位	2.0
担当教員	戸澤 あきつ (生命環境学部), 佐々木 啓介 (生命環境学部), 彦野 弘一 (生命環境学部), 林 憲悟 (生命環境学部), 石田 三佳 (生命環境学部)
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	家畜の繁殖、栄養、飼料、畜産物、畜産施設について、オムニバス形式で講義を行う。 畜産を一連の流れとして捉える幅広い視点を持ち、畜産や関連作業に役立つ人材育成を目指す。
科目に関連する実務経験と授業への活用	動物を飼育する講義を通じて、動物の栄養、生理生態、育種繁殖、環境、畜産物の評価を理解する。 講義を担当する教員は、各分野で研究をおこなっている専門家である。
到達目標	<p>本科目はカリキュラムポリシーに掲げる「専門性を高めるため、「アニマルサイエンス」、「アニマルセラピー」、「野生動物」、「動物看護福祉」の4コースを設置し、関係資格取得のためのカリキュラム」に相当する。</p> <p>1. 家畜の繁殖、家畜の栄養・飼料、家畜の管理および畜産物利用についての基本的な知識を習得し、家畜生産から畜産物の利用までの総合的な理解ができることを目標とする。</p> <p>2. 畜産全般について基本知識を理解・習得し、畜産業に携わる人材に必要な汎用的能力を持てることを目標とする。</p> <p>この科目は畜産学分野の科目群のひとつである（畜産職公務員）。</p>
計画・内容	<p>第1回 ガイダンス / 畜産業をめぐる情勢（担当教員：戸澤） 第2回 家畜の飼養管理とアニマルウェルフェア（担当教員：戸澤）</p> <p>第3回 家畜の繁殖生理：生殖周期と生殖器官の構造・機能（担当教員：林 主任研究員） 第4回 家畜の繁殖生理：受精から着床、分娩（担当教員：林 主任研究員） 第5回 家畜の繁殖技術：発情発見と人工授精（担当教員：林 主任研究員） 第6回 家畜の繁殖技術：受精卵移植と妊娠診断（担当教員：林 主任研究員）</p> <p>第7回 畜産物利用のうち乳および卵について（担当教員：佐々木 グループ長） 第8回 畜産物利用のうち肉について（担当教員：佐々木 グループ長） 第9回 畜産物加工および畜産物の機能性について（担当教員：佐々木 グループ長）</p> <p>第10回 家畜管理工学とは、（作業員・畜産農家の動向）（担当教員：石田 上級研究員） 第11回 畜産施設（畜舎とは、管理システム、作業・家畜・環境との調和）（担当教員：石田 上級研究員） 第12回 畜産における自動化（給餌・搾乳・ふん尿・その他作業ロボット）（担当教員：石田 上級研究員）</p> <p>第13回 動物衛生1：国内防疫、国際防疫、動物検疫（担当教員：彦野） 第14回 動物衛生2：産業動物の感染症（担当教員：彦野）</p> <p>第15回 理解度の確認（担当教員：戸澤）</p>
授業の進め方	スライドや印刷物を利用し講義する。

## 2023年度

能動的な学びの実施	講義で得た知識を基に、現在の畜産業における課題と解決策を、自主的に考えることが望ましい。
授業時間外の学修	予習：講義内容について、参考書等を読んでおく。講義の前日には前回の復習しておく。（各2時間） 復習：教科書やプリントと関連付けて自分の講義ノートを整理する。（各2時間） 講義後は疑問点を書き出しておいて、担当教員に質問等をおこなうと良い。
教科書・参考書	畜産学（養賢堂） 繁殖生物学（日本繁殖生物学会編、インターズー） 最新畜産ハンドブック（養賢堂） 日本飼養標準（中央畜産会）
成績評価方法と基準	出席状況（20%）と期末試験（80%）によって評価する。
課題等に対するフィードバック	必要に応じて講義の資料配布を行ない、質問等については授業で解説を行う。
オフィスアワー	非常勤講師に関しては、授業前後の10分程度、オンラインであれば随時。
留意事項	本講義は畜産職公務員試験対策を意図した科目である。 関連する動物育種学、産業動物学、遺伝・繁殖学、動物基礎栄養学、産業動物の管理と福祉、動物解剖学（または動物組織学）、動物生理学（または生化学）、草地利用学、動物感染症学、動物産業経営論を受講することが望ましい。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 授業動画配信または資料配布によるオンデマンド授業あるいはZoomを用いたリアルタイム授業のいずれかで実施する。  成績評価方法と基準 出席状況・課題提出（20%）および期末試験あるいはレポート提出（80%）で評価する。